

+++++
「植物と人々の博物館メールマガジン」 第 66 号 2020 年 5 月 7 日発行

+++++

朝早く人気薄い頃に、陽いずる野川沿いを歩き、この美しい春の花々の写真撮って、皆様にお贈りします。

www.millemplific.net/weedlife/flowers.html

辛いときに野川のほとりを歩くと、生きていてよかったと心も体も感じます。花々から住んでいる人々の美しい心根が感じられるからです。今しばらくは、小菅の畑に野良仕事に行けず、小金井の自宅キッチンガーデンでささやかな野菜作りをしています。

一本鎖 RNA ヴァイラス Covid19 のパンデミックの恐ろしさが身に染みんでいます。これまでに理屈ではパンデミックのことも論じてきましたが、今はその現実が目前で展開しています。早く流行が去って、爽やかな初夏を迎え、自由に解放されたいですね。皆様もお大事にお過ごしください。

○お知らせ

1. キビなど元の栽培地にもどす玉木さんらの活動、沖縄でキビやアワが栽培復活してうれしいです。
2. 御礼： #民族植物学ノオト、#雑穀街道普及会を作って下さって、ありがとうございます。

雑穀街道への思いを支えて下さった移行者に感謝しています。

○予定

1. 植物と人々の博物館

- 1) 開館・作業予定日：2020 年 5 月はヴァイラス対策のため休館します。
- 2) 栽培保存種子： 雑穀類アワ、キビ、ヒエ、モロコシ、ハトムギ、オオムギ（六条、モチ在来）、コムギ、半白キュウリ、
香辛料ディールなどの種子が欲しい方にはお送りします。ぜひ楽しく栽培して増やしてください。雑穀はそろそろ播き時です。
- 3) 雑穀の種子継：小菅の畑には行けませんので、秋子さんが種継をしてくださいます。
小金井でも、プランタで栽培して種継をしておきます。
- 4) 民族植物学ノオト： 第 14 号に、植物と人々に関する随筆など、ご寄稿を歓迎します。
電子出版ですからカラー写真も大丈夫です。年内にご原稿を頂ければ嬉しいです。内容は著者の責任において自由であり、

その評価は読者がするものと考えていますので、編集者は原則として戴いた原稿の体裁を揃えるだけです。今号に、編集子は山村について熟考したエッセイ2編を載せる予定です。

これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズ）で読めます。国会図書館にも収録されています。バックナンバーは僅少ですが、希望者に差し上げます。メールマガジンもすべて記録してあります。 www.ppmusee.org/goods.html

5) 電子書籍：植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）に電子書籍の項で読めます。

『雪虫』降矢静夫俳句集～甲武境の村・西原に生きて（1998）：ミュージアム・グッズに pdf 掲載の句集は降矢静夫師（俳号光岑）によるものです。降矢さんの人生哲学を深く学ぶために書簡および対談テープ（木俣宛約 300 通、20 本余）もすべてデータベース化し、『山村農人の教養』としてまとめます。『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』『日本雑穀のむら』は一部公開、改訂しています。『第四紀植物』および“Essentials of Ethnobotany”は非公開で書き進めています。夏までには一部公開します。

6) 森とむらの図書室

環境学習関係の録画テープ、CD・DVDなども保存しています。不要と思われるものは破壊して破棄しています。調査記録の 35 mm スライドは不要なものを廃棄しますが、できるだけ残しておきます。

2000 年頃からはデジタルカメラになりましたので、DVD に保存していますから、ハードディスクにバックアップしています。デジタル・アーカイヴとして残しておきます。

寄贈冊子：お米の勉強会会報、クリンネス、現代農業、うかたま、季刊地域、グリーンもあ、グリーン・ウォッチなどをありがたく頂いています。

会員雑誌：雑穀研究、南アジア研究、環境文明 21 会報。

2. 雑穀街道普及会：

日本における伝統的な雑穀栽培は今にも絶滅しそうな状況にあるので、雑穀街道を FAO 世界農業遺産に申請する提案普及を継続します。

広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。

2023 年は国際雑穀年になります。賛同が広がるようにご援助くださいますようお願いいたします。

* 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.millettimplic.net/milletsworld/millstr.html>

なお、『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。

第5章中部地方を整理しています。

<http://www.millettimplic.net/milletsworld/milletesn/jnmpilvil.html>

○ ご案内

家族の食べ物は自分たちで得ること（生業）が原則で、足りない食べ物を分けていただいていること（農林漁業）に感謝したいです。すべて消費、廃棄だけでは、生き物の文明、素のままの美しい暮らしには添いません。

トランジション・ジャパン

ご関心の方は参加ください。エコミュージアム日本村（トランジション小菅）もネットワークに参加しています。また、研究員はトランジション小金井（TTK）の会員でもあります。

家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン（国連家族農業の10年）

ご関心の方は是非ご入会ください。研究員個人として賛同し、会員になり、ホームページに意見を掲載していただいています。

農水省基本方針改訂へのパブリックコメントにも掲載されています。

<https://www.sffnj.net/single-post/2019/05/01/voice-mikio-kimata>

連絡先は下記です。

E-mail: info@ffpj.org URL: <https://www.ffpj.org>

Facebook: <https://www.facebook.com/ffpj2019/> Twitter: [@FFPJ2019](https://twitter.com/FFPJ2019)

~~~~~

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

ミュージアム研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）、川上香（長野）ほか

雑穀街道普及会

<http://www.millettimplic.net/milletsworld/millstr.html>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

公式HP：自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行： 木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

雑穀・民族植物学関係の個人 HP:生き物の文明への黙示録

<http://www.milletimplic.net/>

~~~~~

木俣美樹男 Mikio KIMATA kibi20kijin@yahoo.co.jp

植物と人々の博物館／日本村塾 研究員塾生

Nihonmura College for Environmental Studies, Plants and People Museum

公式 HP： <http://www.ppmusee.org>

個人 HP： <http://www.milletimplic.net>

写真添付 ご近所の庭の花菖蒲

